

カメラのメンテナンス

基礎編

ファームパソコンデジカメ教室



カメラのメンテナンス

いつでもいい写真を撮るためにはこれだけはしておこう

カメラでメンテナンスすべきところは次の場所となります

- ・ボディのメンテナンス
- ・レンズのメンテナンス
- ・センサークリーニング

撮影に出かける前や、帰ってきたらクリーニング
をしておきましょう。

ハクバから、メンテナンスと保管ができるキットが
販売されています。

初めてカメラを買ったときはこれからスタートでい
いと思います。

■レンズのお手入れに

ゴミ・ホコリを飛ばす「シリコンブローブラシ」・レンズの汚れを落とす「レンズクリーニングキット 30」

■ボディのお手入れに

本体のホコリをはらう「DSLR ボディブラシ S」・液晶画面、ボディの清掃に「ダブルワイブクロス」

■カメラの保管に

カンタン保管密閉容器「ドライボックス 5.5SK」・長期の保管に必需品「乾燥剤キングドライ 15×2」

まずこれだけあれば、基本のメンテナンスが行えます。

この中で、撮影に持って行っておきたいのは、ブローとレンズクロス。

これは複数もっておいてもいいと思います。



ボディのメンテナンス

- ・本体のホコリをはらう 「DSLR ボディブラシ S」
- ・液晶画面、ボディの清掃に 「ダブルワイプクロス」

基本は、ブラシでシャッターやダイヤルなどの隙間にあるほこりやゴミを掃き出します。

液晶面などは、クロスで拭きます

また、ファインダーについては、専用のブラシやクロスで拭きます。



なおセンサーについては、これらのものは絶対に使わないこと。潰れます。

レンズのメンテナンス

- ・ゴミ・ホコリを飛ばす 「シリコンブローブラシ」
- ・レンズの汚れを落とす 「レンズクリーニングキット 30」

個人でできるメンテナンスは限られています

レンズを伸ばして、ズームリングやピントリングの隙間にあるゴミやほこりをブローで吹き飛ばす。

鏡胴（外装）をクロスで拭く。

雨天などでぬれた場合もクロスで拭く。

前レンズは、まずブロアーで表面のほこりやゴミを吹き飛ばしてから、レンズクリーナーで拭く。

後ろのレンズはブロアーで吹いて、ほこりを飛ばす程度にします。

レンズの後ろ側に傷がつくと致命的な故障となるためです。

また、カメラ本体との設定については、接点コーティングを行っておくと誤動作防止になります。



なお、レンズ内にあるカビやほこり、ゴミの掃除は個人ではできませんので、カメラ店などを通してメーカーでの修理となります。

センサークリーニング

デジタルカメラでセンサーは非常に重要な部分です。

レンズ交換式の場合は、レンズを外し時にミラーレスなら直接見えますし、従来からの一眼レフタイプなら、ミラーの後ろに隠れています。

センサーにゴミがつくと、撮影した写真に同じところに黒い点が映ります。また、ミラーレスカメラでは、ファインダーや液晶画面にリアルタイムに黒い点が見えます。それがセンサーについたゴミです。

人気サービス

2

最短 当日仕上げ

センサークリーニング

Before



After



写真に写ってしまうセンサーのゴミや汚れを専門の道具を使用して清掃いたします。

コレ!!

35mmフルサイズ
APS-Cサイズ以下
※3※4

通常価格
1台 **3,300円**
(税抜3,000円)

基本的に店舗でお願いするとこれくらいの費用がかかります。

まず、自分でできる範囲でクリーニングをしましょう。

多くのカメラには、センサークリーニングモードがあり、電源を入れるときや切るときに、自動で行っている場合がほとんどです。そして、一眼レスの場合は、高速連続撮影モードにして、シャッターを切りつけると。ミラーの上下動作でセンサー上のゴミが落ちることがあります。

また、設定メニューなどに、センサークリーニングの項目がありますので、それを実行します。多くのカメラはセンサーを振動させてゴミを落とします。

つづいて、ブローアを使って、センサーに触れないように注意して吹き飛ばします。

一度電源を切って終了です。ここまでの作業は、注意すれば自分でできますし、撮影中に気がついたときにも行えます。

ゴミがとれたかどうかの確認

ここまで実行して、ピントをマニュアルであわせて、絞りを f11 程度にして、白い壁や空に向かってレンズを向けてカメラをわざと振りながら写真を撮ります。撮影した写真をモニターで確認して黒いものが写っているようであれば、ゴミはとれていません。

前記のクリーニングを何度か行ってもとれない場合は、店舗でクリーニングを行ってもらうか、自己責任の下自分でクリーニングを行います。

センサークリーニングの道具

センサーのサイズにあわせて用意します。

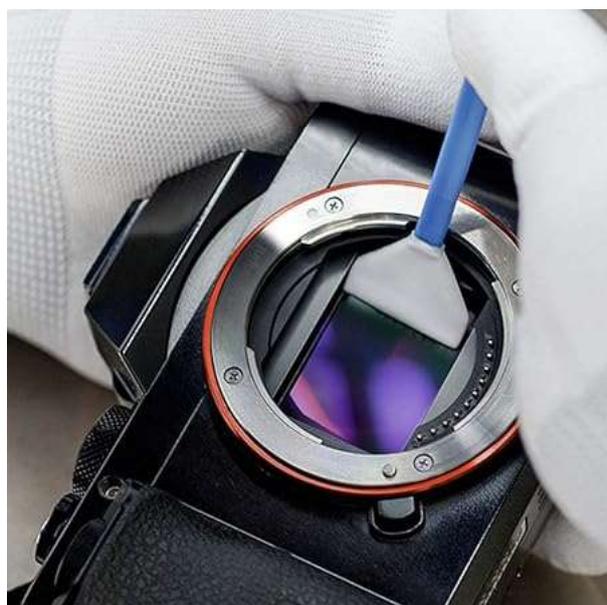
下記の写真ようなクリーニングスワイプを使用します。一般の綿棒や某メーカーが行っているピンセットでのクリーニングはセンサーを傷つける確率が非常に高いのでおすすめしません。

このハケの幅がセンサーサイズにあわせて用意されています。



クリーニング用の専用液がついているキット

もあります。ハケの幅があることで、一点に力がかかることなく横にスライドするだけの動作となるので、傷をつけることがとても少なくなります。注意したいのは、このスワイプは、スワイプ自体にゴミがつか



ないように個別包装されています。ゴミをとって使ったあと同じものを使用すると、ゴミをつけてしまうだけでなくセンサーに傷をつけてしまうことになりますので、1度限りの使い捨てにしましょう。

このクリーニングはほこりが舞っていない場所で行いましょう。

なお、センサーの裏側に入り込んだゴミは、取ることが困難です。メーカー修理となります。

どうぞ参考にしてください

カメラのメンテナンス

基本編

2024年10月1日 第1版発行

著者 伏井 啓之

発行 ファームパソコンデジカメ教室

毎週水曜日撮影会実施中、詳しくは下記まで

〒584-0031

大阪府富田林市寿町4-9-10

TEL 090-5243-4669 (携帯)

TEL/FAX 0721-23-4420

e-mail : info@farmpced.net

ホームページ <https://www.farmpced.net>